

マイウェイ

No.58
2005

続 横浜もののはじめ物語

監修 斎藤多喜夫 写真 桜井ロクスケ

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成17年12月発行 ● 発行人 小川 是 ● 編集人 清水照雄 ● 発行財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-225-2171 (直通) (株)西北社 大日本印刷(株)

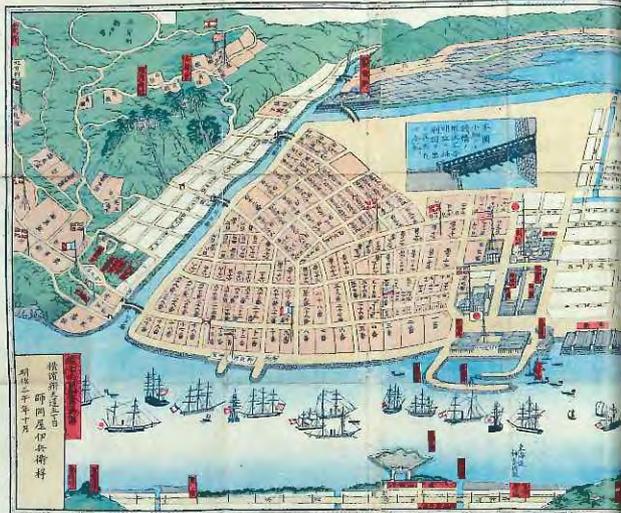


横浜開港150周年
歴史を継ぐ

「風を受けて世界へ開く“帆”」をイメージしています。三枚の帆は、ピンクが市民、グリーンが企業、ブルーが行政を表現し、重なり合う二つの三角は“力”と“融合”を表し、1世紀半におよぶ当地の歴史とそこに培われた進取の気質を織り込んでいます。これらが三位一体となり、「夢」という風を受けて未来の横浜を力強く押し上げます。

続 横 浜 も の の は じ め 物 語

外国人技術者たちの指導のもとに進められた町づくりは、やがて日本人の暮らしを大きく変えていく。



「横浜明細之全図」明治3年刊。開港11年後の居留地周辺の図。波止場を中心に東側（図の左側）が外国人居留地区。馬の博物館所蔵。

馬車道に復元された日本で最初のガス灯。壁面には明治末期の馬車道のレリーフが。



居留地を舞台にした

殖産興業の実験

斎藤多喜夫

横浜開港資料館調査研究員

都市基盤や交通手段の整備から

安政六年六月二日（一八五九年七月一日）、外国貿易のために横浜の町と港が開かれました。貿易に従事する外国人のために開かれる町のことを居留地といいます。翌年初頭頃から居留地の町づくりが本格化し、やがて西洋の小都市を

思わせる町ができあがります。

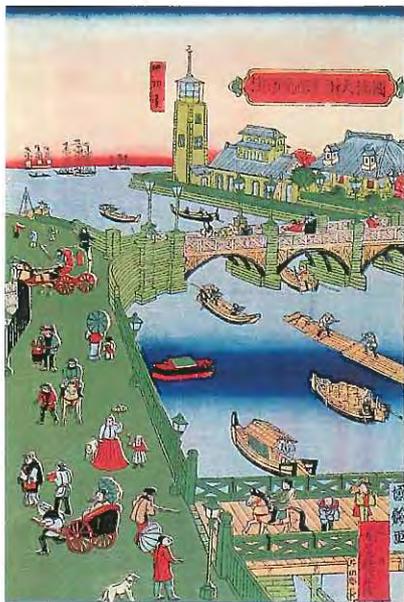
長い鎖国のもので、かえって好奇心が研ぎ澄まされていた日本人にとって、居留地は珍しい西洋文化の陳列場であり、それらを食欲に吸収しました。居留地を通じての西洋文化の摂取、それが「もののはじめ」の諸事象です。

「もののはじめ」には「宦」によるものと、「民」によるものがあります。昨年九月に刊行した『マイウェイ』特集「横浜もののはじめ物語」では、主に後者を紹介しましたので、続編に当たる今号では主に前者を紹介します。横浜開港資料館が編集・発行した「横浜もののはじめ老」という本の見出しで言うところ、「港と町づくり」「運輸・通信」などがこれに当たります。

表紙／三代広重画「横浜海岸通之図」（部分）明治3年刊。横浜開港資料館所蔵。裏表紙／「日本ガス事業発祥の地」碑。



「横浜各国商館之図」三代広重画。馬の博物館所蔵。



「横浜商館並二弁天橋図」(部分) 二代国
鶴画 刊年不詳。横浜開港資料館所蔵。



20世紀初頭の横浜港。横浜
開港資料館所蔵(右頁下も)。



明治27年に完成した鉄橋。



項目	年次	発端	事業主体	御雇外国人	備考
電信	明治2年	外国人の出願	灯台寮	ギルバート	神奈川県令の建議
下水道	明治4年	外国人の要求	神奈川県	ブラントン	
鉄道	明治5年	外国人の出願	鉄道寮	モレルら	オリエンタル銀行に委託
ガス灯	明治5年	外国人の出願	ガス会社	プレグラン	外国商社との競争に勝つ
上水道	明治20年	外国人の要求	神奈川県	パーマー	自治要求を沈静化

横浜におけるライフラインの整備。

の技術を導入するために、主要な方法として採用されたのが外国人技術者の雇用、いわゆる「御雇」でした。表をご覧ください。これは外国人の要求に端を発し、日本側が外国人技術者を雇用して実施した事業の一覧です。注目すべきは、外国人のアクションから始まったとしても、事業の主体は日本側にあり、対象となったのは居留地だけではなく、日本人市街を含む都市の全体だったことです。また、ガス事業は、民間で、しかも居留地内でのガス供給権をめぐる、外国企業との競争に打ち勝って実施されたことも注目されます。

さいとう・たきお●1947年、横浜市生まれ。東京都立大学大学院修士課程修了。現在、横浜開港資料館・横浜都市発展記念館調査研究員。共著に「F・ペイト奪未日本写真集」横浜もののはじめ考」ほか。著書に「幕末明治 横浜写真館物語」など。

外国人技術者を雇用して事業を拡大

官主導の事業においても、居留地は大きな役割を果たしています。鉄道建設にみられるように、外国人技術者の雇用や資材の輸入、外債募集などのためには、居留地に拠点を持つ外国の銀行や商社の手を借りる必要があったからです。都市基盤や交通手段の整備にあたって、西洋

す。つまり都市基盤や交通手段の整備にとともなう西洋文化の移入です。
明治維新後、新政府が「殖産興業」を旗印に、積極的に西洋の技術を採り入れた際、横浜はその仲立ちの役割とともに、「実験室」としての役割をも与えられました。電信や鉄道はその成果物であり、同時に殖産興業政策を支える人と物と情報の流通の動脈ともなりました。

ガス灯・電灯

ガス灯から電灯へ、横濱の夜を照らした「文明開化」を告げる明かり。



上ノ一横濱名勝競 伊勢山下瓦斯本高雪中の一覽 国松岡 横浜開港資料館所蔵
下ノ上の絵のガス工場のあつた伊勢山下・現在の本町小学校正門前に建つ「日本ガス事業発祥の地」碑。

電信・電話

馬車と機関車で手紙を運ぶ時代から便利で早い電信・電話の時代のはじまり。

明治二年八月に横浜灯明台役所と横浜裁判所との間に電信線が架設され、官用通信が実施されました。これが日本最初の実用通信です。さらに九月十九日には横浜裁判所内に電信機役所が設置され、東京電信局までの電線架設工事が行われました。この日(陽暦十月二十三日)が電信電話記念日に定められています。

また、明治九年にグラハム・ベルにより電話が發明されると、翌年、工部省が横浜のバヴィエル商会を通じて電話機を二台購入し、電信線を利用

しての通話実験を行いました。京浜間での電話交換業務が開始されたのは、明治二十三年十二月十六日のことです。

明治中期の居留地海岸通り。左手にガス灯、道路左側に電灯線の電柱が見える。右側は電話線用。横浜開港資料館所蔵。



HOTEL YOKOHAMA

明治三年、フランス人技師ブレグランの指導のもとに高島嘉右衛門のガス会社が伊勢山下にガス工場を建設。明治五年九月二十九日(陽暦十月三十一日)、大江橋から馬車道、本町通りにかけて、日本最初のガス灯が点灯されました。居留地にガス灯が点灯されたのは、日本人街より二年ほど遅れた七年十二月のことです。

電灯は明治十一年三月二十五日、工部大学校で英国人教師エアトンの指導によりアーク灯が点火されたのが最初で、この日が電気デーに。

その後、明治二十二年に横浜共同電灯会社が設立され、初代社長に高島嘉右衛門が就任。翌年には火力発電所の建設や電柱の設置、電線の架設工事が進められ、横浜の夜を明るく照らし出しました。



上ノ左図の左側の建物が伝信局(「東京横浜名所一覽四会 横浜裁判所」三代広重画。明治5年)、右図は伝信局内部(「幕末明治文化変遷史」より)。横浜開港資料館所蔵。下ノ横浜地方裁判所の玄関脇に建つ「電信創業の地」碑。



波止場

イギリス波止場が開港場横浜の最初の港湾設備だった。



上／開港直後の波止場（貞秀「横浜土産」より。万延元年4月刊）。下／明治初期のイギリス波止場。ともに横浜開港資料館所蔵。



横浜開港前年の安政五年（一八五八）、横浜村に設定された運上（うんじょう）所（当時の税関）の北側海面に二本の突堤が設けられ、最初の波止場が完成しました。のちにできるフランス波止場に対してイギリス波止場とも言われます。その東側の突堤が第一突堤（狭義のイギリス波止場）、西側が第二突堤（旧国産波止場、税関波止場とも）で第一突堤が現在の大桟橋の根元付近とのこと。また、当時の出版物から、開港直後の波止場築造時には常夜灯（灯明台）が設置されていたことが確認されています。

近代下水道

陶管下水道から、鉄筋コンクリート管へ。



右／開港広場から発掘されたブラントン時代の陶管。左／横浜市中土木事務所前に展示されているレンガ造りの卵形管。

日本で最初の近代下水道設備は神戸・横浜の外国人居留地に進められ、どちらも明治四年に完成。横浜では、英国人技師リチャード・ヘンリー・ブラントンの指揮のもとに陶管下水道が敷設され、その後、三田善太郎によりレンガ造りの卵形下水道管に改造。また明治十四年に、三田善太郎により関内の日本人街に石造下水道が敷設されました。これは、外国人居留区を除く、日本人による最初の近代下水道とのこと。そして、明治中期から徐々に鉄筋コンクリート管に移行してゆきます。

鉄の橋

「鉄（かね）の橋」として親しまれ、多くの錦絵にも描かれた横浜名所。



上／「横浜吉田橋通繁盛之図」（部分）二代国輝画 馬の博物館所蔵。下右／吉田橋。横浜開港資料館所蔵。下左／現在の吉田橋。

明治二年十一月に架け替えられた関内入口の吉田橋は横浜最初の鉄の橋。工事を担当した英国人技師R・H・ブラントンは「日本最初の鉄橋」と記していますが、実は日本最初は、前年八月長崎に架設された「くろがねばし」で、吉田橋は二番目の鉄橋。しかし、トラス構造（三角形を基本にした部材で構成される構造）の鉄橋としては日本初。

現在、関内駅前に当時の錦絵をもとに復元された吉田橋が架けられています。橋の下には水はなく、高速道路が走っています。

建築

開国後初の教堂建築は、カトリック聖堂・横浜天主堂。

創建直後の天主堂（「横浜開港見聞誌」より。文久2年刊）。横浜開港資料館所蔵。



横浜天主堂跡に建てられた記念碑。

文久元年十二月十三日（一八六二年一月十二日）、居留地に住む外国人のために横浜天主堂が献堂。場所は現在の中区山下町八〇番地。みなとみらい線「元町・中華街」駅のすぐ近くにありました。当時はまだキリスト教禁制のため、日本人への布教は認められていませんでしたが、連日多くの見学者がつかかけ、神父の説教を聞いたために牢屋に入れられた人もいたそうです。天主堂は、その後、山手四四番に移転し、関東大震災で焼失し、現在のカトリック山手教会として再建されました。

近代水道

水質が悪く、飲み水に苦しむ横浜市民の願いが実現。



上／横浜駅と水道記念噴水基。明治中期、横浜開港資料館所蔵。
下／横浜水道の歴史や仕組みを展示する横浜水道記念館。

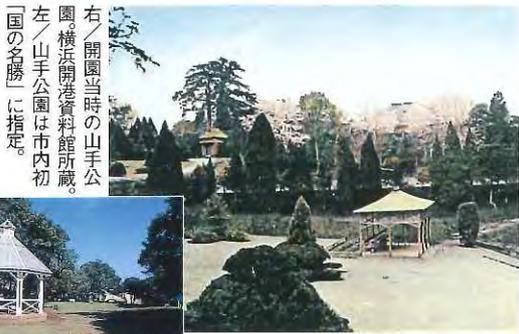


イギリスの工兵中佐H・S・パーマー設計監督による「横浜創設水道」が、日本最初の近代水道です。相模川支流の道志川を水源に、横浜の野毛山配水池まで延長四八キロの水道管を敷設し、明治二十年十月十七日に市内に配水しました。

横浜市水道局野毛山配水池に建つパーマーの胸像の前には、「いつでもどこでも安全で良い水が欲しいという人々の夢はこの近代水道の完成によって実現された」と記されています。

公園

外国人専用の山手公園と、日本人との共用公園・横浜公園。



右／開園当時の山手公園
横浜開港資料館所蔵
左／山手公園は市内初「国の名勝」に指定。

山手公園は居留外国人の出資により造成され、明治三年に開園した日本初の洋式公園です。しかし、県に支払う借地料を支払えず、明治十一年、居留外国人女性たちのテニス・クラブ（L.T.C.）が賃借。園内にテニスコートを設置しました。

また、英国人技師R・H・プラントンの設計の横浜公園は、明治九年に開園。こちらは外国人・日本人が共用する最初の公園で、中央芝生地にクリケット・グラウンドが設けられました。

外国郵便

在日外国郵便局から横浜郵便局へと移管。



「横浜郵便局開業之図」(部分) 三代広重画。神奈川県立歴史博物館所蔵。

明治四年三月一日、郵便制度が創始。当初外国郵便物は在日外国郵便局が取り扱っていましたが、六年八月に日米郵便交換条約が締結され、アメリカ郵便局が廃止され、業務が新設の横浜郵便局に移管。八年正月に外国郵便開業式が催され、次第に外国郵便業務は日本政府の管轄下に置かれていきました。

居留地消防隊

三台の消防ポンプをもつ消防隊が結成。



明治14年頃に撮影された居留地消防隊の記念写真。横浜開港資料館所蔵。

開港四年後の文久三年（一八六三）十二月二十二日、居留地内のクニフラー商会で火災が発生、これを契機に翌年一月に消防隊が結成されます。手動ながら三台の消防ポンプ車を有した最初の消防隊でした。ちなみに、この頃は横浜天主堂の鐘がファイアー・アラームに使用され、鐘楼は火の見櫓の役割を果たしていました。

病院

歯科医第一号は、上海から出張して診療。

安政六年（一八五九）十月にダツカンという医師が開業した「神奈川ホスピタル」が病院の第一号。約三十人の患者を収容できる施設がありました。また、慶応元年（一八六五）十月、イーストラックという歯科医が上海から横浜に出張診療に来たのが歯科医第一号で、明治十五年頃に現在の山下町で開業しました。



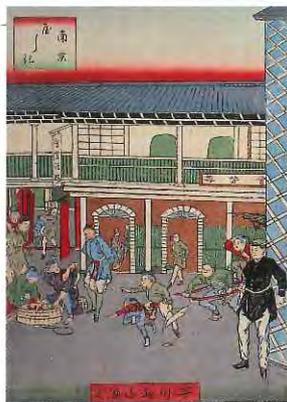
「我国西洋歯科医学発祥の地碑」

歯科の広告「入歯引札」。横浜開港資料館所蔵。

劇場

外国人劇場「ゲート座」には、坪内逍遙、大佛次郎、芥川龍之介などが訪れた。

元治元年（一八六四）三月、曲芸師リズレーが曲馬団を率いて来日し、横浜で興行。十一月に「アンフィシアター（円形劇場）」を開設。次にできたのが中国劇場「会芳楼」。本格的な外国人劇場としては、オランダ人ヘフトが自分の倉庫を改装して建設した「ゲート座」が最初で、明治三年十二月に開場。ゲート座は、その後ヘフトの手を離れ、山手に移転。現在、跡地には「ゲート座記念石崎博物館」が建っています。



上／中国劇場・会芳楼が描かれた「横浜名所 南京やしき」松山画。神奈川県立歴史博物館所蔵。
下／創設当時のゲート座。横浜美術館所蔵。

水泳・海水浴

海水浴ポートを浮かべただけの海水浴場。

トーマス・S・スミスにより、

慶応元年（一八六五）、五月一日から十月一日までフランス波止場の沖合いに海水浴ポートが設置され、八月五日には水泳大会が開催されました。これが、横浜最初の海水浴場で、最初の水泳大会などのこと。その後、富岡、山下、本牧、根岸、磯子などに海水浴場が開設。明治三十一年には、フランス波止場前で、東京浜町河岸で水練場を開いていた水府流太田派の門弟たちと横浜アマチュア・ローウィング・クラブ（YARC）との間で対抗戦が開かれています。



海水浴場として知られていた本牧十二天。（「風俗画報」より）。横浜開港資料館所蔵。

野球

居留外国人対アメリカ軍艦チームの試合。



横浜公園で行われた試合の様相（「ジャパン・パンチ」より）。

明治四年に居留外国人チームとアメリカ軍艦コロラド号の水兵たちとの間で行われた試合が、日本で最初の野球の試合。結果は十四対二でコロラド号チームが大勝。明治九年には横浜公園で、居留民とアメリカ軍艦からの選抜チームで行われ、今度は二九対二六で居留人チームが勝利しています。

テニス

山手公園で始まった近代テニス。

明治九年、居留地の外国人女性たちによりテニス・クラブが作られ、横浜公園にコートが設けられました。このときはネットの高さやコートの広さも自由でした。その後、十一年に山手公園にテニス・コートが作られてから、近代的なテニスが行われるようになります。



山手公園でテニスを楽しむ外国人（「横浜名所公園地」より。松山画）。神奈川県立歴史博物館所蔵。



「日本庭球発祥の地」碑。

スケート

初すべりは、砂利や砂混じりの小さなリンク。

開港当初は、「石川のカゲ下」にあった仮のスケート場が居留外国人たちの最初のリンクでした。しかし、「砂利や砂がガケから落ちてくるのでダメ」になり、明治九年に根岸の射撃場脇にリンクが作られました。青木安兵衛ら農民が所有する水田を外国人に貸与したもので、十一年末には、「横浜スケートリンク」が結成されました。

兵衛ら農民が所有する水田を外国人に貸与したもので、十一年末には、「横浜スケートリンク」が結成されました。

牛鍋

牛肉販売の始まりとともに牛鍋が普及、横濱、東京で多くの店が輩出。

居留地内で食肉処理が行われたのは万延元年（一八六〇）。二年後の文久二年（一八六二）には、入船町の居酒屋の伊勢熊という人が店の半分を仕切って牛鍋屋を開店。慶応元年（一八六五）には、能登出身の高橋貞松が吉田新田の堤で牛肉の串焼きの屋台を始め、その後、末吉町に移り、「醤油と味噌とを素とした一種のタレ」と鉄鍋による料理法を考案。この店が「太田縄暖簾」の名で知られる現役最古参の牛鍋屋です。



上／「米久牛肉店 吉岡町一丁目」昭和3年。下／牛鍋流行の様子を描いた飯名垣魯文著「牛店雑談 安愚楽鍋」明治4年。ともに横浜開港資料館所蔵。

西洋野菜

居留外国人の指導で西洋野菜を栽培。

万延元年（一八六〇）十二月、神奈川奉行所がアメリカ麦の種を入手し、生麦・鶴見の両村で試作栽培を始めたのが西洋作物導入のはじまり。西洋野菜は、文久年間（一八六一〜一八六三）に居留外国人たちによりパセリ、キャベツ、タマネギ、トマト、アスパラガス等々が栽培されたのが最初で、慶応元年（一八六五）に、神奈川奉行所の指図で、吉田新田の吉田家でイチゴ、セロリ、落花生、馬鈴薯などが栽培されました。

上／吉田新田で西洋野菜を栽培（想像図）「横浜吉田新田図会」より。昭和10年。下／「神奈川子安町所見 八百屋の店」。ともに横浜開港資料館所蔵。



目薬

宣教医へボンから伝授された目薬。

岸田吟香（後の新聞記者、実業家）は、眼病治療に宣教医へボンを訪れ、それがきっかけで、助手になり、日本初の和英辞典「和英語林集成」の出版を手伝いました。このときへボンから目薬の製法を伝授され、慶応二年（一八六六）に「精錫水」の名で販売。



楽善堂の錦絵広告。右が精錫水の広告。横浜開港資料館所蔵。

時計

日本人時計師を育成したファヴルブランド。

安政六年（一八五九）に居留地に在留していた「トケイヤ・フアルコ」こと、機械師フオークが横浜最初の時計師とのこと。元治元年（一八六四）にはスイスの特派使節団の一人、ジェームズ・ファヴルブランドが時計店を開業しています。



時計の輸入と生糸の輸出をしていたスイス系商社の商標。横浜開港資料館所蔵。

日本人時計師の草分けは、明治初年袋物露天商と時計商を兼業した山田勘次郎でした。

義足

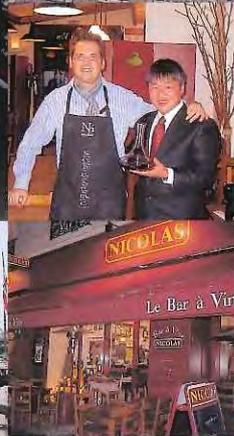
義足で舞台上に立った人気歌舞伎役者。

慶応三年（一八六七）九月、歌舞伎の立女形として人気を博した沢村田之助は、脱疽治療のため医師へボンの手で右足を切断。翌年アメリカから届いた義足を装着し、横浜下田座で御礼興行を開催。しかし、脱疽は左足にも転移し、田之助は三十四歳で逝去。



田之助を描いた錦絵。文久3年。堤真和氏所蔵。

上/内野さん自慢の銘酒コーナー。手前に玄米樽が並ぶ。下右/「うちでは精米したてのお米をお売りしています。味が違います」と内野さん。中右・上/店の前のプロムナード。中左/ワイン・コーナー。中右・下/パリのワイン専門店「ニコラ」の店長と。その下は「ニコラ」店頭。下左/派遣団の仲間たちと記念撮影。



海外派遣団員が語る ⑤

日本のワインのおいしさを
多くの人に伝えていきたい。

横浜市都筑区 内野商店 内野敦さん

商売の基本はコミュニケーション

平成十六年に、(財)はまぎん産業文化振興財団主催の商業従業者海外派遣団に参加して、パリ、コブレンツ、フランクフルトの三都市を視察してきました。約一週間の日程でしたが、たいへん有意義な視察でした。私の人生の貴重な一頁になったといっても過言ではありません。

私が担当した視察先は、パリの中心街にある「ニコラ」というワイン専門店です。フランスでも有名なワイン卸売業の小売店の一つで、一年前に店長

のステファンさんがレストランと併設して開店したお店でした。

ちょうど私が訪れたときは、ボージ(ヨレ・ヌーボーの解禁日(毎年十一月の第三木曜日)の前で、店頭のポップや店内ディスプレイなどで、お祭りムードを盛り上げていました。といっても、日本のお祭り騒ぎとは違って、フランスでは新酒をお祝いする神聖なお祭り、儀式です。

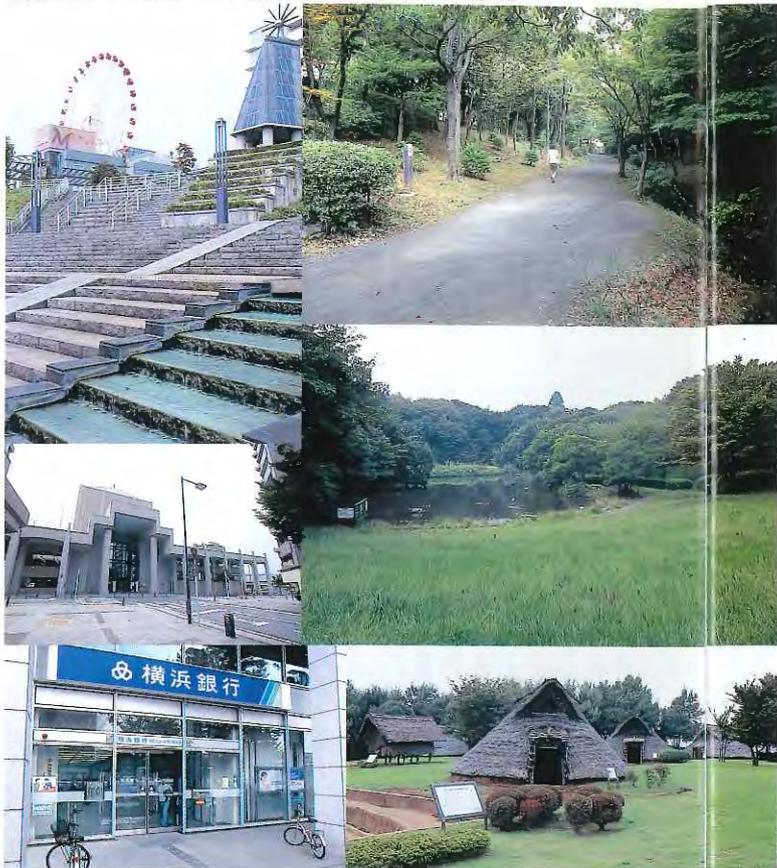
ステファンさんによると「フランスワインはフランスの血であり、文化である」と。その意味では、ボージョレ・ヌーボーの解禁日は、彼らにとっ

て、特別な日なんです。

この日は、結局、予定時間を大幅に超えて、いろいろなお話を伺い、最後にはワインのテイスティング(試飲)をして、大満足のうちに終了しました。ステファンさんは、とても話好きな方で、本当は一晩中もお話していたかった。そんな中でも、とくに印象が強かったのが、ステファンさんのお客様に対する姿勢でしょうか。小売業の基本は、お客様とのコミュニケーションであるということ、改めて実感させてもらいました。

もちろん、仕事に対する誇りや商品

上右/緑道「ささぶねの道」。中右/鴨池公園。港北ニュータウンは緑道・公園が多い。
上左/ニュータウンのシンボルともいえる観覧車。中左/横浜市歴史博物館。下右/
弥生時代の遺跡を中心に、江戸時代の旧家を移築した民家園などがある「大塚・歳勝
土遺跡公園（国史跡）」。下左/横浜銀行港北ニュータウン南支店。



知識、確かな顧客情報があつてこそで、ただ親切に接客しているだけではありません。そのことが一番勉強になりましたね。

日本のワインを日本の文化に

視察旅行から帰って、ちょうど一年ほど経ちますが、その間変わったことは、まず、うちの店のワイン・リストが増えたことでしょうか（笑い）。

ワインだけではなく、日本酒、焼酎にも力を入れています。やはりワインには特別な思いがあります。とくに日本産のワインをもっと多くの方に飲

んでいただきたい。日本のワインは最近、かなりおいしくなりましたし、日常的に楽しむのに手頃な価格で購入できます。うちのお客様はそのへんのこと、よく分かってらして、日本産がいちばん売れています。

フランス人にとってフランスワインが文化であるように、日本人にとっては日本のお酒が文化です。日本酒、焼酎もそうですが、ワインも、日本産のワインは不思議と日本の料理に合う。これは本当です。それから、ワイン好きのお客様とワインの話をするのは実に楽しいし、お客様から教えられるこ

とも多い。ありがたい限りです。これからは月に一日でも、テイスティングができる日を作って、お客様と一緒に楽しみたいと思っています。すぐには無理かもしれませんがね。

まあ、このように仕事を楽しめるようになったのは、視察旅行のおかげですね。財団さんには、本当に感謝しています。あつ、それに、もう一つ。派遣団では、たまたま私が団員八名の方のリーダーをやらせていただきましたが、視察を通して、彼らと仲間になれたのが大きな財産だと思っています。本当にいい仲間なんです。（談）



(有)内野商店 ●横浜市都筑区荏田南5-8-12/市営、東急バス・荏田南バス停より徒歩5分 ☎045-941-6251
FAX045-941-9943 無料通話0120-02-1122
営業時間9時~21時/日曜定休

内野敦（うちの・あつし）●昭和41年生まれ。大学卒業後、(有)内野商店に入社し、仕入れ、販売に従事。現在は店長に。荏田南近隣センター商店会や都筑区商店街連合会若手会など、地域振興活動に取り組み。
※(財)はまきん産業文化振興財団では、事業の一つの柱として、平成元年より神奈川県内の商業従業者の方を対象に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を主催。海外の商業文化を視察する機会を提供しております。

お知らせ

〈はまぎんホールヴィアマール〉からのご案内
新春はまぎん寄席

毎年恒例の新春はまぎん寄席では、「笑点」でおなじみの三遊亭小遊三師匠とマジック界の大御所マギー司郎師匠をお迎えします。

大いに笑い、大いにビックリして、新春のひと時をお楽しみください。

日時●平成18年1月28日(土)開演18時

会場●はまぎんホールヴィアマール

主催●(財)はまぎん産業文化振興財団

協賛●横浜銀行

入場料●2,200円(全席指定・税込)

※未就学児童の入場は遠慮ください。

チケット取扱いフレイガイド

●高島屋横浜店6階チケットショップ

●相鉄観光フレイガイドジョイナス1階

●ロイヤルチケット(ロード3210)

●サウインドポート

045(311)5111
 045(319)2456
 0570(000)777
 045(243)9999



文化講演会「西洋への扉をひらく」

横浜は、2009年に開港150周年を迎えます。マイウェイ「横浜もののはじめ物語」及びその続編の発行を記念して、横浜開港にちなんだ文化講演会を開催します。

第一部「講演」よこはま開港ことはじめ

講師●横浜開港資料館調査研究員 斎藤多喜夫

第二部「レクチャーコンサート」

黒船が運んだメロディ〜ペリー来航と音楽〜

演奏●横浜シティ・フィルハーモニック

解説●横浜開港資料館調査研究員 平野正裕

日時●平成18年2月19日(日)開演14時(開場13時)

会場●はまぎんホールヴィアマール

主催●(財)はまぎん産業文化振興財団 横浜開港資料館 協賛●横浜銀行

後援●横浜市教育委員会 入場料●ご招待(無料) 400名[全席自由]

※未就学児童の入場は遠慮ください。

申込方法●往復はがきに住所・氏名・年齢・電話番号・希望人数

(2名まで可)を記入のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1

はまぎん産業文化振興財団まで(応募者多数の場合は、抽選)。

締切●平成18年1月16日(月) 当日消印有効

お問い合わせ●はまぎん産業文化振興財団 045(225)2171



<http://www.yokohama-viamare.or.jp/>

※「マイウェイ」へのご意見・ご要望は
info@yokohama-viamare.or.jpへお気軽にお寄せください。

年金

〈はまぎん〉からのお知らせ

「年金」電話相談サービス

(無料)のご案内

年金制度や年金請求の手続き方法など、

年金に関する疑問に

何でもお答えいたします。

また、年金に関連した雇用保険制度、

健康保険制度についてのご相談や

「年金教室」のお申し込みも承ります。

お気軽にお電話ください。

●〈はまぎん〉年金デスク

フリーダイヤル 0120(334)089

●相談受付日 銀行窓口営業日

●相談受付時間 9時〜17時

編集後記

昨年九月に、横浜を通じて日本に伝えられた産業や文化をご紹介します。「横浜もののはじめ物語」を発行いたしました。この物語は、新聞にも取り上げられ、また、学校の教材、市民団体の参考資料にと、各方面から入手のご要望を受けるなど、好評を博することができました。それとともに、続編の要望も多数寄せられましたので、この度、それにお応えして「続 横浜もののはじめ物語」を発行いたしました。

今回は、近代化に向けての生活や産業基盤を形成する約二十の「もののはじめ」を紹介しております。いずれも、時代の変遷を経た今でも、私たちの暮らしには欠かせないものばかりです。改めて、近代文明の道

への先達を務めた横浜の歴史の重みを感じた次第です。また、前頁の「マイウェイプラザ」に掲載しておりますが、来年二月に横浜開港にちなんだ文化講演会を開催いたします。「マイウェイ」とあわせて、横浜の魅力をお楽しみいただく機会となり得れば、誠に幸いです。

最後になりましたが、前回に続きまして、監修をいただいた横浜開港資料館の斎藤多喜夫氏をはじめ、取材にご協力いただいた関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団
 事務局長 清水昭雄

●次号予告(2006年3月下旬刊行)
 特集「かながわ民話物語」(仮)